

別記様式第1号（第5条関係）

当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会 開催結果の要旨

会議名	第5回 当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会				
日時	平成27年6月19日（金） 午後1時30分～3時5分	場所	当尾の郷会館2階 「多目的教室」		
出席者	委員	■多田 実（会長）、■石井 好二郎（副会長） ■前田 義之、■吉田 修史、■植村 海宥、■山本 憲市、 ■倉山 美幸、■畠 浩靖、□西村 正子、■浦辺 長次、 ■福岡 正司、■住山 貢（代理出席：矢野 淳） ※□：欠席者			
	その他出席者				
	事務局	前川課長、辻主幹、西村係長			
議題	1. 開会 2. 議事 (1) 協議事項 ・素案づくりについて（資料1） 3. その他 4. 閉会				
審議結果要旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 議事 (1) 協議事項 ・素案づくりについて（資料1） 事務局より、資料1を基に素案づくりについて説明し意見交換を行った。 3. その他 次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。 4. 閉会				
審議経過要旨	1. 開会 審議結果要旨のとおり。 2. 議事 (1) 協議事項 ・素案づくりについて（資料1） 審議結果要旨のとおり。 主な意見・質疑等は次のとおり。 (○…質疑・意見、→…質疑に対する返答) ○当尾ごぼうは幻の食材か。				

- それなりの生産量はあるが、市内でも手に入りにくい食材である。当尾の土質が適しているものの、担い手と共に生産量も減ってきてている。料亭などでも使われていると聞き及んでいる。
- 資料6ページのコンセプトの中で、関係団体として企業・大学が入るのであれば具体的に明記していってはどうか。
- コースづくりや維持には市の協力が不可欠である。環境の改善について、どういった目的に応じたものを目指すかで変わってくる。案内板設置の地元調整には関わりが可能である。
- 気軽に野菜販売できるように、当尾の郷会館を利用し、地域全体が潤うようなことにつなげたい。道の駅など年間を通して全体で取り組めるような場所があればと思う。
- 野菜を販売できる環境がほしい。当尾南部は観光客も多く、吊り店で販売をしているものの、それ以外の地域は販売できる場所が無い。定期的なイベントの時などに販売できればと思う。
- 耕作放棄地は人出不足が課題である。草だけでなく既に木が生えている所もあり具体的に話を進めていくことが必要である。
- 農業体験の受け入れ等は可能な取り組みか。
→外部からの受け入れの考え方は農業者によって差がある。楽しくワイワイできれば良いと思うが、事前準備等を考えれば難しい点も出てくる。
- 当尾の郷会館や加茂青少年山の家の活用がポイントではないか。道の駅のような取り組みとして、当尾北部・中部地域の方が販売できる場所になればいい。
- 観光は南部だけになっているが、道を整備して周遊できる様になれば流れも変わると考える。大型バスなどの通行が可能となれば、地域全体を人だけでなく循環できるようになる。
- 観光案内ツアーはN P O団体の力も借りることで取り組みがより可能となってくる。
- 南加茂台の住民は現在でも当尾を散歩コースとして使っており、新たにコースができれば日常的な利用も可能ではないか。中には取り組みが発展してサークル活動になっている所もある。また食材についても、散歩中に吊り店

を活用している方もおり、取組みの対象者は意外と当尾地域の近くにいるのではと考える。

○コースの維持についても、当尾に近い人がリピーターとして利用してくれることで、積極的な協力を得られる体制づくりにつながる可能性があるのではないか。更に、歩く人が増えることで、地元目線での案内板設置について気付く事もあると考える。

○今は食材を買うのに、日常的には市外にも行っている。当尾の郷会館を使って毎週土曜日だけでも定期的な取組みをしてはどうか。

吊り店は個人での販売量であるので、早く売り切れる事もある。会館を使うことで、多くの方が購買していただく機会につながる。

○空き家マップや休耕地マップを作つて、人を誘導することができないか。南加茂台にも民家レストランがあり、数量は少ないが、地元野菜等を活用したメニューも期待できる。また空き家も安価で自作工房として活用している方もおられる。

○若者にシェアハウスが受けている。空き家や休耕地の活用から若い世代へのアプローチが可能かもしれない。これらの環境はクリエーターにもいいものである。

○マルシェ的なものに興味がある。気軽に野菜を販売できる仕組みづくりが必要。市外で販売することもいいが、地元で売りたい思いがある。当尾の郷会館を利活用できればと考える。

○農業体験について、使いきれていない土地をそのまま貸して使ってもらうことは可能であるが、収穫体験程度というのは難しい。

○有害鳥獣について、捌いて販売するとなると許認可が関わってくる。ジビエ料理の提供も可能であるものの、施設整備も含めた環境がほしい。

○農業や限界集落を研究テーマとして大学との連携という手法は可能である。研究データ収集にもいいフィールドであればよりいいのではないか。

○学研都市関連で「健康キャラバン」の取組みに関わっている。例えば加茂駅で簡易なバイタルサインの計測をして、運動と健康を結びつけることができる。更に食材の健康成分とつなげ、身体活動での影響を研究することもできる。

	<p>○ヘルツーリズムを科学的に取組むというのもおもしろい。</p> <p>○マップ作成やＳＮＳによる情報発信などで支援は可能である。</p> <p>地域住民がどれだけ素案づくりに参画したかが重要である。現在は盛り沢山の内容で最終的に何を目指しているのか不明瞭である。地元の方にとってどうなつたら一番幸せなのかという視点が必要である。</p> <p>○イベントをして地元からのクレームが多いという事例もあるが、これの何が幸せであり何が姿としてあるべきなのかと感じる。</p> <p>どうなれば幸せになるのか、例えば若い人が来て子どももがけて、地元の方が見守ってくれることで生きがいを感じることが地域の幸せになるのでは。</p> <p>あるべき姿について地元の人の声を聞くべきである。</p> <p>○できることをピックアップしている状態、これから絞り込むことも考えていくことが必要。</p> <p>○地域での活動団体も高齢化している。農業については体験やイベントから少しずつ可能なところから始め、イベントや体験もサークル的になればいいのでは、個人的にはやっていきたい。</p> <p>○地域の人が何を望んでいるのか。どういう形で地元に情報提供していくのか考えるべき。この地域には人が集まる拠点が必要である。</p> <p>観光協会として観光産業が少ないと思っており、産業化に取り組んでほしい。何か立ち上がってくれば、新たな展開も可能になってくる。</p> <p>○観光ツアーの実施に向けて、地域の資源・地域の人がガイドをして小さな旅づくりを支援し作り上げる「やましろち～たび」を進めている。</p> <p>○市は「できない」とはすぐに言わないように進めていきたい。もっといろんな方の考えも聞いていきたい。</p> <p>地元の方との関われる場所をつくり、これからが本当に進めていきたい所。多様な主体と手をつないでいきたい。</p> <p>○地元にどう反映しているのか。 →これから相談しながら、様々な人にも参加していただけるようにしていきたい。</p> <p>○地方創生の取組みが国で進んでいる、木津川市ではどういう進捗か。 →市も検討組織を立ち上げたところで、今から議論を深めていくところ</p>
--	---

	<p>である。市の地方創生の取組みと、この委員会での内容をつないでいきたいと考えている。</p> <p>3. その他 審議結果要旨のとおり。</p> <p>4. 閉会</p>
その他特記事項	傍聴者 1 人